

令和6年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	竹原市立竹原中学校	校長	吉本 康隆	生徒指導主事	望月 公平
取組事例名	『球技大会』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
異年齢の生徒同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るために、生徒が自ら計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的・実践的に取り組む態度を育てる。	主体的に組織をつくり、人間関係形成を育てるために、役割を分担し、計画を立て、学校生活の課題を見だし解決するために話し合い、合意形成を図り実践する生徒。



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
① 3月、「竹原中学校を盛り上げるためにはどのように取り組んでいけばよいか」について、学校運営協議会の方々と共に考える機会を設け、行事の取り組み方について検討した。	生徒にめあてをもたせるために ○運営をする生徒会執行部には、計画的に進めていく中で、生徒全員が楽しめる競技を選び、ルールを決定させた。 ○開催時期や開催の趣旨を生徒会執行部中心に生徒全員が理解できるように開会式で生徒会長が挨拶を行った。 《本時のめあてを設定》 ①異年齢と関わりを深めること ②気持ちをリフレッシュすること ③学校が好きになり、また明日も来たいと思うようになること
② 6月、生徒総会にて「意見箱」を設置することを伝え、全校生徒の意見から本企画を実践することを決定。	生徒の意欲を高めるために ○意見箱を設置し、生徒の意見から本事業を実施した。 ○生徒会執行部が計画段階から主体的に動き、運営を行った。 ○各クラスのリーダーを中心にチーム編成を考えた。
③ 7月、生徒会執行部で「球技大会」の企画・運営会議を行い、今後の実施計画や取組内容について協議した。	生徒の頑張りを認め、価値付けるために ○学校通信や学年通信の配布 ○校内の掲示物の作成 ○PTA新聞で生徒の活躍した様子や感想を発信 ○アンケートによる振り返り
④ 9月、競技（種目）やルールを検討するとともに、準備物などについて協議した。	
⑤ 10月18日（金）5～6校時に「球技大会」を開催し、運営も審判も生徒会執行部が中心となり実施。	
⑥ 2学期の終わりに、アンケートを行い生徒の意見を集約した。	



3 成果と課題

成果は、本企画を生徒会執行部が中心となり最後まで生徒主体で成し遂げることができ、達成感と成就感、異年齢集団との交流を通して人間関係形成能力を育むことができた。事後アンケートでは、多くの生徒が、その時間を楽しみ充実した時間を過ごしたと行事への関心に対しての肯定的な生徒が97%であった。また、生徒の中には不登校傾向にあった生徒もこの球技大会を目標として登校意欲に効果があった。課題は、計画的に企画を進めていく運営力や取り組んだ種目に関して検討する必要がある、見通しを持って取り組む中で、「ニュースポーツ」や「パラスポーツ」など誰もが楽しめる種目や競技を取り入れるなど検討していなければならないと感じている。